

著者に聞く

農家女性の戦後史 日本農業新聞「女の階段」の五十年

姉歯暁・著



言葉です。

農業では
男性と同等
に働き、家
事や育児、
介護に地域

この本を書く過程で、「女の階段」愛読者の会の8人に
インタビューをしました。共
通したのは「私たちは、なぜ
こんな目に遭つたんでしょう。
不条理ですよね」という

農家女性の
戦後史

日本農業新聞
「女の階段」の五十年

姉歯 暁



一 本書の目的は「農
家女性の不条理をもたら
してきたものが何かを探
すこと」とあります。

この本を書く過程で、「女の階段」愛読者の会の8人に
インタビューをしました。共
通したのは「私たちは、なぜ
こんな目に遭つたんでしょう。
不条理ですよね」という

投稿から不条理読み解く

み解くために、どんな
作業をしましたか。
「女の階段」全国集会の手
記集は全て読み、複数の方から
借りた投稿の切り抜きを読
み込みました。でも、読めば
読むほど、一人一人の人生と
体験から吐露された思いに押
しつぶされそうになります。
手記集を読み始めてから
出版まで5年かかったのは、
何十回書き直しても、女性た
ちの人生を受け止められて
いる、足りない、と思ったか
らです。苦しかった。自分の
姿勢を問われる怖さを感じ、
「農家でないのに」という批
判も受ける覚悟でした。

それだけ、投稿や手記集の
水準が高かったのです。つづ
られた思いや経験は、農村の
内側から見たリアルな女性史
であり、農政史であり、絏済
史、生活史です。膨大な分析
が必要で、分野に分けて年表
にするところから始め、部屋
に貼って執筆を進めました。

一本書から見えてき
た今の時代の問題は。

投稿や手記集に書かれてき
たことは、決して過去の問題
ではありません。自立を目指
し、政治に関心を持ち、チャ
レンジしてきた先進的な事業
農家の女性たちが「次世代に
このまま引き継いでいいもの
か」という悩みの中にいま
まで追い込まれています。
来像が見えず、農政に諦めを
感じている。日本農業はそこ
まで追い込まれています。
「女の階段」を引っ張つてき
たような女性たちの力を、こ
の国と農政が生かしきれてい
ないのが本当にもつたない
ない。農業の持つ力を發揮、拡大
させる最前線にいるべき人た
ちです。一人一人の力を生か
せば世の中は変わるのでに。
家事、育児、介護を女性だけ
に担わせないこと、これらの
公的サービスを要望する誰も
う。女性が活躍でき、頑張った
人が輝かしい老後を送れる國
であるよう、JAを含め農業
界全体で考える問題です。

一世代」は書くことで考え、何
とか壁を打ち破ろうと努力し
ました。続く「第二世代」も含
め、解決を阻んだものが何か
を明らかにするため、私は女
性たちが生きた時代を追体験
する必要がありました。

一世代」は書くことで考え、何
とか壁を打ち破ろうと努力し
ました。続く「第二世代」も含
め、解決を阻んだものが何か
を明らかにするため、私は女
性たちが生きた時代を追体験
する必要がありました。

—投稿や手記を「

あねは・あき 1960年、東京都生まれ。89
年、國學院大學大学院経済学研究科博士課程単位取
得。現在、駒澤大学経済学部教授。経済学博士。「平成の大
凶作」といわれた93年、県立新潟女子短期大学（当時）に赴
任し、消費生活・経済の観点から米不足を調査する中で、農業
業と農政への関心が深まる。こぶし書房・刊（2200円）。
投稿者である女性8人のインタビューを収めた。